

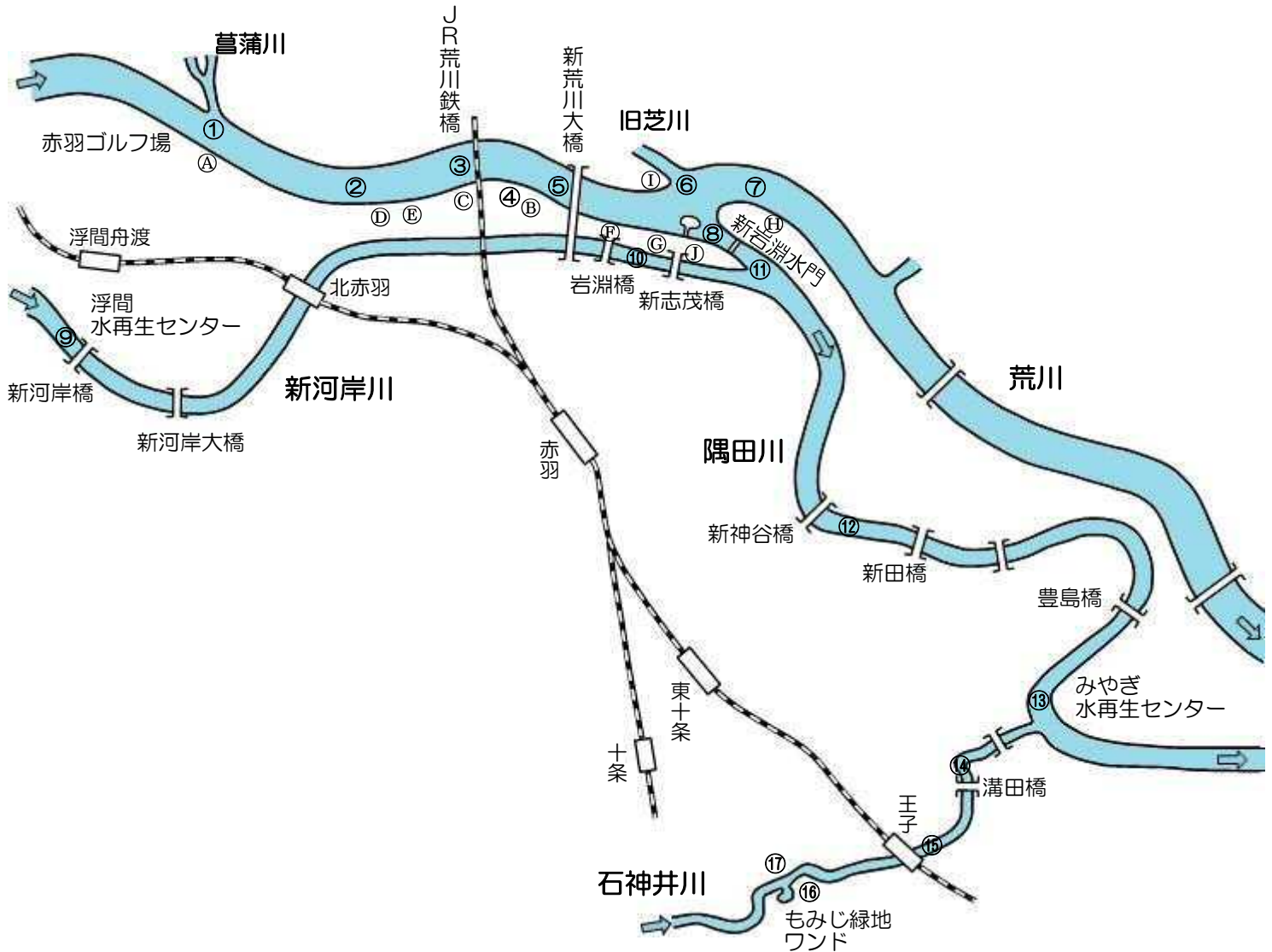
第34回
北区河川生物生息調査
報告書
平成29年度



平成30年3月
北 区

北区河川生物生息調査地点図（平成29年度）

釣り調査地点 A～J
投網調査地点 ①～⑰



投網調査地点

◎平成29年9月20日 ☆10月6日 ★10月11日

[荒川]

- ☆★-① 菖蒲川荒川合流点付近
- ☆-② JR荒川鉄橋上流200-400m付近
- ☆-③ JR荒川鉄橋下
- ◎-④ 荒川子どもの水辺ワンド
- ☆-⑤ 新荒川大橋下
- ☆★-⑥ 旧芝川荒川合流点付近
- ☆-⑦ 旧芝川荒川合流点下流400m付近
- ☆-⑧ 旧岩淵水門下流

[新河岸川]

- ★-⑨ 浮間水再生センター排水口付近
- ☆-⑩ 新志茂橋上流200m付近

[隅田川]

- ☆-⑪ 新岩淵水門下流
- ☆-⑫ 新神谷橋下流300m付近
- ☆-⑬ みやぎ水再生センター排水口付近
- ☆-⑭ 溝田橋付近

[石神井川]

- ★-⑮ 石神井川王子駅下トンネル内
- ◎-⑯ もみじ緑地ワンド
- ◎-⑰ もみじ緑地ワンド横本流

釣り調査地点

平成29年10月11日

[荒川]

- A 菖蒲川荒川合流点右岸
- B 荒川子どもの水辺ワンド
- C JR荒川鉄橋上流20m付近右岸
- D JR荒川鉄橋上流200m付近右岸
- E JR荒川鉄橋上流150m付近右岸
- F 新荒川大橋下流150m付近右岸
- G 新荒川大橋下流500m付近右岸
- H 新岩淵水門100m付近荒川右岸
- I 旧芝川荒川合流点

[新河岸川]

- J 新志茂橋付近左岸

は じ め に

私たちの住む北区には、荒川をはじめ隅田川・新河岸川・石神井川の4河川が流れています。川は、昔から人々と深いかわりを持ち、まちの産業・文化の発展に大きな役割をはたしてきました。また、豊かな流れと美しい自然の景観も多くの恵みをもたらしてくれました。

しかし、戦後の産業経済の発展と急速な都市化の進行にともない、川は、工場排水や生活排水により著しく汚れてしまいました。なかには、一時期、悪臭がして魚も棲めないため、「死の川」と呼ばれた川もあったほどです。さらに、治水対策として垂直のコンクリート護岸がつくられ、人々をますます水辺から遠ざけてしまいました。

このように川が下水に近くなった時代から、近年は汚濁発生源に対する規制の強化と下水道整備等により、水質は良くなってきました。また、河川環境の整備も進み、各種の魚も見られるようになって、川は再び憩いの水辺として甦りつつあります。

しかし、魚などの水生生物が安定して棲め、誰もが安らぎやうるおいを得られる川としては、河川の構造改善、水質・流量の安定など、まだまだ多くの課題があります。さらなる水質改善や水辺環境の向上を図るには、区が各種の施策を積極的に推進することはいうまでもありませんが、区民の方々にも河川に対する強い関心を持っていただき、多方面からの対策を展開することが必要です。

区では、化学分析による水質調査だけではなく、河川の魚類生息状況を調査し、推移をみることにより河川環境を判断することを目的として、昭和59年度から「河川生物生息調査」を継続実施しています。この報告書は、平成29年度に実施した第34回調査の結果をまとめたものです。誰にでも親しめる水辺環境の実現に向けて、区民の方々に河川の水質や環境に対する理解を深めていただくための参考となれば幸いです。

なお、当調査にご協力いただいた北区釣魚連合会、淡水魚類研究者の君塚芳輝氏、飯島香織氏、並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

【調査概要】

北区内の河川に生息している魚類を把握するために、9月20日、10月6日、10月11日の3回に分けて魚類調査を行いました。採集した魚は、種・亜種（以下種類とする）の同定、個体数、全長と標準体長（最少～最大）の測定を行いました。

第1回調査は平成29年9月20日に、石神井川もみじ緑地ワンドと荒川子どもの水辺ワンドで、歩いての投網・手網による調査をしました。石神井川もみじ緑地ワンドでは、直前にワンド内の水を本流に排出し、魚の採集がしやすい状態で調査をしました。また、ワンド横の石神井川本流においても投網・手網による調査をしました。

第2回調査は平成29年10月6日に、荒川・新河岸川・隅田川で、船からの投網による調査をしました。

第3回調査は平成29年10月11日に、荒川・荒川子どもの水辺ワンド・新河岸川で、北区釣魚連合会の協力による釣りと、荒川・新河岸川・石神井川で船からの投網による調査をしました。

採集した一部の魚については、可食部の総水銀とPCBの含有量について魚肉分析をしました。

	調査日	調査項目	調査方法	調査場所
第1回	9月20日	魚類生息状況	歩いての投網・手網	石神井川・石神井川もみじ緑地ワンド 荒川子どもの水辺ワンド
第2回	10月6日	魚類生息状況	船からの投網	荒川 新河岸川 隅田川
第3回	10月11日	魚類生息状況 魚肉分析	釣り 船からの投網	荒川・荒川子どもの水辺ワンド 新河岸川 石神井川

〔石神井川もみじ緑地ワンド（音無もみじ緑地）〕

すり鉢状構造のため川岸近くまで降りることができます。川に面してワンドが設けられ、本流の流水環境に対して静水環境を付加することで、河川の構造的環境の多様性を高めています。ワンドの中央には水生植物などが繁茂し、増水時に川から入ってきた魚が定着や繁殖しやすいようになっています。



〔荒川子どもの水辺ワンド（北区・子どもの水辺）〕

JR荒川鉄橋と新荒川大橋の間に挟まれた高水敷に、ワンドのある自然地「北区・子どもの水辺」が整備されています。維持管理や調査は、地域のボランティアの方々の熱心な活動に支えられ、良好な生態系の保持と多世代にわたる人々の自然環境学習の場として利用されています。国土交通大臣表彰の「平成26年度手づくり郷土賞」一般部門に選定されています。





ワンドを歩いて投網・手網で魚を採集



船上から投網を打って魚を採集



釣りにより魚を採集（協力：北区釣魚連合会）



採取した魚は魚種や全長などを調べてから川に放すが、特定外来生物はその場で処分

【調査結果】

3 日間の調査で、33 種類 751 尾の魚類が確認されました。調査を始めてから今までに確認された魚種は 57 種類です。

東京都レッドリスト記載種は 10 種類、環境省レッドリスト記載種は 7 種類、外来種は 6 種類確認されました。魚種の内訳は、淡水魚種と海水・汽水性魚種であり、広い範囲が汽水域や感潮域である区内河川の特徴を表しています。

今回は調査日が例年より少し遅く、気温や水温が下がっていたと考えられます。この影響のためか、去年に比べて全体的に採れた魚の個体数が少ない結果となりましたが、種類数は 33 種類と既往 2 位の記録でした。

石神井川もみじ緑地ワンドで確認されたアブラハヤ・シマドジョウ・ポリプテルス類は元々この川には生息せず分布も異なるため、人為的放流によるものと考えられます。人為的放流は地域に形成された生物相や生態系に様々な影響を及ぼす可能性があるので行うべきではありません。

【河川別個体数】

各河川において確認された種類と個体数は以下のとおりです。

番号	目名	科名	標準和名	荒川		隅田川	新河岸川	石神井川		合計	備考
				荒川	子どもの水辺ワンド			石神井川	もみじ緑地ワンド		
1	ニシン	ニシン	サッパ			9	1			10	
2			コノシロ	19		6	46			71	
3	コイ	コイ	タモロコ		2				10	12	国内移殖種
4			スゴモロコ	1						1	国内移殖種
5			モツゴ		56			2	31	89	
6			ニゴイ	8				1		9	
7			アブラハヤ						3	3	国内移殖種※
8			マルタ	2	7	1				10	
9			オイカワ						6	6	
10			ハス	2						2	国内移殖種
11			ハクレン			1				1	外来種
12			ギンブナ	9	76				12	97	
13			ゲンゴロウブナ	3						3	国内移殖種
14			コイ	2	5			1		8	
15			タイリクバラタナゴ		89					89	外来種
16		ドジョウ	ドジョウ					3	6	9	
17			シマドジョウ					1	10	11	国内移殖種※
18	ナマズ	ギギ	ギバチ		1					1	国内移殖種※
19	ダツ	メダカ	メダカ*					1	2	3	国内移殖種※
20	カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	5	64			1		70	特定外来種
21			グッピー						2	2	外来種
22	ボラ	ボラ	ボラ	25	72					97	
23	スズキ	スズキ	スズキ	49	1		2			52	
24		サンフィッシュ	ブルーギル	2	5					7	特定外来種
25		ヒイラギ	ヒイラギ	5						5	
26		ハゼ	アベハゼ		23					23	
27			ヨシノボリ類		1					1	
28			ウロハゼ		1					1	
29			ヌマチチブ	13	9		7			29	
30			シモフリシマハゼ	1	4		5			10	
31			マハゼ	8		3	5			16	
32			アシシロハゼ	2						2	
33	ポリプテルス	ポリプテルス	ポリプテルス類						1	1	外来種
8目12科33種類			種類数	17	16	5	6	7	10	33	
			個体数合計	156	416	20	66	10	83	751	

※国内他水域からの人為的放流の可能性が高い

*東京都では野生個体群が絶滅状態なので、人為的な放流と思われる

【外来種・国内移殖種の確認状況】

「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（外来生物法）」で特定外来生物と指定された種及び「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト（生態系被害防止外来種リスト）」に記載された外来種を「外来種」としました。

特定外来生物に指定されているカダヤシは在来のメダカとの競合が懸念されています。ブルーギルは小型魚類などを捕食するため、在来生物群集に対する影響が懸念されています。

目名	科名	標準和名	荒川	隅田川	新河岸川	石神井川	特定外来生物	生態系被害防止外来種リスト
コイ	コイ	ハクレン		○				●
		ハス	○					●
		タイリクバラタナゴ	○					●
カダヤシ	カダヤシ	カダヤシ	○			○	●	●
		グッピー				○		●
スズキ	サンフィッシュ	ブルーギル	○				●	●

【絶滅危惧種等の確認状況】

環境省レッドリスト及び東京都レッドリスト（2010年版）の選定基準で指定されている種。東京都レッドリストは区部の評価を基準としました。

科名	種名	荒川	隅田川	新河岸川	石神井川	東京都 レッドデータリスト	環境省 レッドリスト	移殖種
コイ	スゴモロコ	○					絶滅危惧Ⅱ類	○
	ニゴイ	○			○	準絶滅危惧		
	アブラハヤ*				○	絶滅危惧Ⅱ類		○
	マルタ	○	○			留意種		
	ハス	○					絶滅危惧Ⅱ類	○
	ギンブナ	○			○	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	
	ゲンゴロウブナ	○					絶滅危惧ⅠB類	○
ドジョウ	ドジョウ				○		情報不足	
	シマドジョウ*				○	絶滅危惧Ⅱ類		○
ギギ	ギバチ*	○				絶滅危惧ⅠA類	絶滅危惧Ⅱ類	○
メダカ	メダカ*				○	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	○
ハゼ	アベハゼ	○				準絶滅危惧		
	ヌマチチブ	○		○		留意種		
	アシシロハゼ	○				留意種		

※荒川水系に天然分布する魚種ではあるが、流域分布からみて国内他水域からの人為的放流の可能性が高い

*東京都では野生個体群が絶滅状態なので、人為的な放流と思われる

「東京都の保護上重要な野生生物種（本土部）～東京都レッドリスト～2010年版」（東京都環境局）

絶滅危惧Ⅰ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの

絶滅危惧ⅠA類：ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの

絶滅危惧Ⅱ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実に考えられるもの

準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの
留意種：現時点では絶滅のおそれはないと判断されるため上記カテゴリーには該当しないが、留意が必要と考えられるもの

「環境省レッドリスト2017【汽水・淡水魚類】」

絶滅危惧ⅠB類：ⅠA類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの

絶滅危惧Ⅱ類：絶滅の危険が増大している種

情報不足：評価するだけの情報が不足している種

【魚肉分析結果】

採集した魚類の中から6検体を選び、可食部に含まれている総水銀と PCB の量を分析しました。その結果、全検体で総水銀と PCB が検出されましたが、暫定規制値以下でした。

平成 29 年 10 月 11 日採集

	魚類名	捕獲河川名	場所	総水銀	PCB
				mg/kg	mg/kg
1	スズキ	荒川	菖蒲川荒川合流点右岸	0.30	0.63
2	スズキ	荒川	旧芝川荒川合流点	0.18	0.52
3	スズキ	荒川	JR荒川鉄橋上流150m付近右岸	0.20	0.50
4	スズキ	新河岸川	浮間水再生センター排水口付近	0.28	0.55
5	ボラ	荒川	旧芝川荒川合流点付近	0.01	0.40
6	マハゼ	荒川	新荒川大橋下流500m付近右岸	0.04	0.23

- (備考) 1.総水銀とは水銀及びその化合物をいう。
 2.分析値は全て乾燥試料あたりに換算してある。
 3.分析部位の可食部については、それぞれ数尾の可食部を混合したものである。
 4.暫定的規制値
 ・総水銀…0.4mg/kg (内水面水域の河川産の魚介類については適用外)
 (昭和 48 年 7 月 23 日付厚生省環境衛生局長通知「魚介類の水銀の暫定的規制値について」)
 ・PCB 内海内湾(内水面を含む)魚介類(可食部)…3.0mg/kg
 (昭和 47 年 8 月 24 日付厚生省環境衛生局長通知「食品中に残留する PCB の規制について」)
 5.分析方法：衛生試験方法 2.4 食品汚染物試験法準拠

【資料】

第1回投網・手網調査の結果（平成29年9月20日）

(1) 石神井川

もみじ緑地ワンド

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	タモロコ	49~92	39~82	10
2	モツゴ	38~96	32~77	31
3	アブラハヤ	27~87	21~72	3
4	オイカワ	35~112	28~87	6
5	ギンブナ	69~97	54~76	12
6	ドジョウ	21~156	18~135	6
7	シマドジョウ	50~58	42~50	10
8	メダカ	28~29	23~24	2
9	グッピー	25~50	20~45	2
10	ポリプテルス類	160	119	1

もみじ緑地ワンド横本流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	モツゴ	58~65	49~51	2
2	ドジョウ	19~23	16~19	3
3	シマドジョウ	57	49	1
4	メダカ	28	23	1
5	カダヤシ	26	21	1

(2) 荒川

荒川子どもの水辺ワンド

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	タモロコ	62	47	1
2	モツゴ	38~73	32~58	55
3	マルタ	37~97	29~78	7
4	ギンブナ	24~110	18~86	75
5	コイ	63~133	48~102	5
6	タイリクバラタナゴ	32~51	23~42	88
7	ギバチ	42	35	1
8	カダヤシ	12~38	10~31	60
9	ボラ	46	38	72
10	ブルーギル	28~73	24~56	5
11	アベハゼ	21~38	18~29	23
12	ヨシノボリ類	33	27	1
13	ウロハゼ	44	38	1
14	ヌマチチブ	33~48	27~38	6
15	シモフリシマハゼ	37~44	30~36	4

第2回投網調査の結果（平成29年10月6日）

(1) 荒川

菖蒲川荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	98	77	1
2	スゴモロコ	25	22	1
3	ニゴイ	136~162	112~131	2
4	マルタ	130	105	1
5	ギンブナ	152~296	120~235	3
6	ゲンゴロウブナ	130	99	1
7	コイ	202	161	1
8	ボラ	85~181	69~145	12
9	スズキ	321~328	257~279	2
10	ブルーギル	55~75	42~59	2
11	マハゼ	91	72	1

JR荒川鉄橋上流200-400m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	92~110	72~90	5
2	コイ	735	577	1
3	ヒイラギ	42~65	34~74	3

JR荒川鉄橋下

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	97~118	76~95	7
2	ニゴイ	120~155	93~120	3
3	スズキ	116	78	1
4	ヒイラギ	50~62	42~49	2
5	アシシロハゼ	37~45	30~36	2

新荒川大橋下

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	カダヤシ	22~29	18~24	5
2	ヌマチチブ	25~43	22~36	11
3	シモフリシマハゼ	34	27	1

旧芝川荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	137	114	1
2	ボラ	120~151	96~121	2
3	スズキ	189	150	1

旧芝川荒川合流点下流400m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	90~103	74~83	5
2	ニゴイ	112~121	90~98	3
3	ボラ	123~150	96~120	5
4	スズキ	147	115	1
5	マハゼ	131	103	1

旧岩淵水門下流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ハス	77	61	1
2	マハゼ	115	87	1

(2) 新河岸川

新志茂橋上流200m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	サッパ	95	81	1
2	コノシロ	80~118	67~94	15
3	マハゼ	111	92	1

(3) 隅田川

新岩淵水門下流

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マハゼ	94	76	1

新神谷橋下流300m付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	108	89	1
2	マハゼ	86	69	1

みやぎ水再生センター排水口付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	サッパ	92~109	72~87	9
2	コノシロ	91~99	74~81	5
3	ハクレン	825	680	1
4	マハゼ	107	88	1

溝田橋付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マルタ	87	67	1

第3回投網調査の結果（平成29年10月11日）

(1) 荒川

菖蒲川荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ハス	95	78	1
2	ギンブナ	77	59	1

旧芝川荒川合流点付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ボラ	172	138	1

(2) 新河岸川

浮間水再生センター排水口付近

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	コノシロ	102~115	81~113	31
2	スズキ	356	286	1

(3) 石神井川

石神井川王子駅下トンネル内

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ニゴイ	480	409	1
2	コイ	634	492	1

第3回釣り調査の結果（平成29年10月11日）

(1) 荒川

A. 菖蒲川荒川合流点右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	145~214	113~185	11

B. 荒川子どもの水辺ワンド

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	タモロコ	71	55	1
2	モツゴ	69	57	1
3	ギンブナ	72	55	1
4	タイリクバラタナゴ	57	44	1
5	カダヤシ	33~40	27~32	4
6	スズキ	162	135	1
7	ヌマチチブ	38~45	30~38	3

C. JR荒川鉄橋上流20m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	166	135	1

D. JR荒川鉄橋上流200m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	174~222	143~181	4
2	ヌマチチブ	555	44	1

E. JR荒川鉄橋上流150m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	152~206	123~168	5
2	マハゼ	100	82	1

F. 新荒川大橋下流150m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	162~198	129~154	7
2	マハゼ	130	100	1

G. 新荒川大橋下流500m付近右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	マルタ	155	126	1
2	ギンブナ	165~248	140~197	5
3	ゲンゴロウブナ	245~265	195~205	2

H. 新岩淵水門下流100m付近荒川右岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	ボラ	126~178	101~148	5

I. 旧芝川荒川合流点

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	110~230	105~183	16
2	ヌマチチブ	48	39	1
3	マハゼ	111~142	92~117	3

(2) 新河岸川

J. 新志茂橋付近左岸

	種類	全長(mm)	標準体長(mm)	個体数
1	スズキ	180	147	1
2	ヌマチチブ	48~73	34~60	7
3	シモフリシマハゼ	54~59	42~47	5
4	マハゼ	119~149	97~118	4

北区で見られる魚たち 1 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

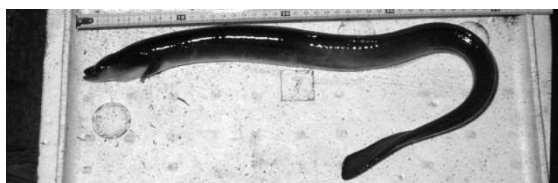
<1> サッパ



<2> コノシロ



<3> ウナギ



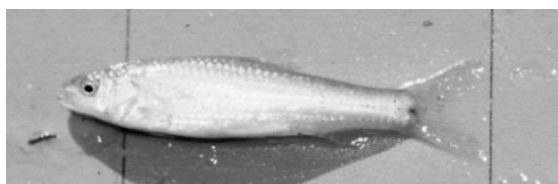
<4> アユ



<5> ワカサギ



<6> タモロコ



<7> スゴモロコ



<8> モツゴ



<9> ニゴイ



<10> カマツカ



<11> ツチフキ



<12> アブラハヤ



<13> ウグイ



<14> マルタ



<15> オイカワ



<16> ハス



北区で見られる魚たち 2 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

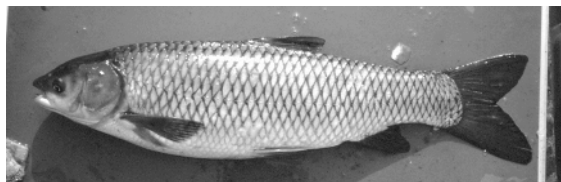
<17> ワタカ



<25> コイ



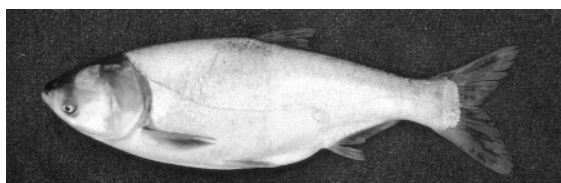
<18> ソウギョ



<26> ヤリタナゴ



<19> ハクレン



<27> アカヒレタビラ



<20> コクレン



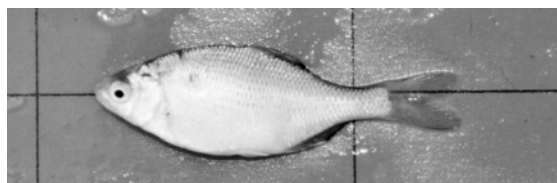
<28> タイリクバラタナゴ



<21> キンブナ



<29> ゼニタナゴ



<22> ギンブナ



<30> ドジョウ



<23> ゲンゴロウブナ



<31> シマドジョウ



<24> キンギョ

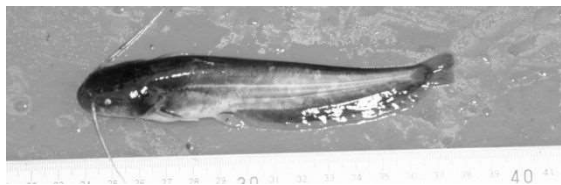


<32> ギバチ



北区で見られる魚たち 3 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

<33> ナマズ



<34> メダカ



<35> クルメサヨリ



<36> カダヤシ ※特定外来生物



<37> グッピー



<38> ボラ



<39> カムルチー



<40> スズキ



<41> キチヌ



<42> オオクチバス ※特定外来生物



<43> コクチバス ※特定外来生物



<44> ブルーギル ※特定外来生物



<45> ヒイラギ



<46> シマイサキ



<47> コトヒキ



<48> アベハゼ

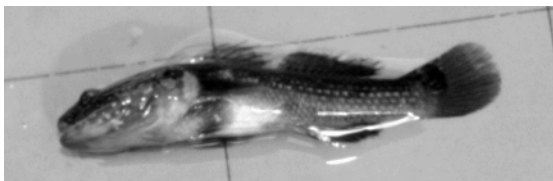


北区で見られる魚たち 4 ー河川生物生息調査で捕れた種類ー

<49> ヒナハゼ



<54> ヌマチチブ



<50> クロダハゼ



<55> シモフリシマハゼ



<51> ウロハゼ



<56> マハゼ



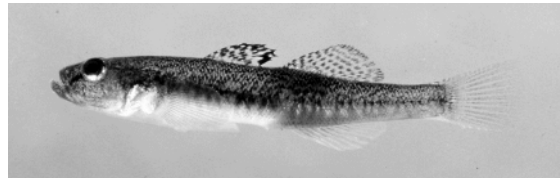
<52> ウキゴリ (淡水型)



<57> アシシロハゼ



<53> ビリンゴ



<ー> ポリプテルス類



君塚芳輝氏撮影：

1,10,13,21,26,31,36,46,47,48,50,53

【年度別捕獲魚類一覧表】

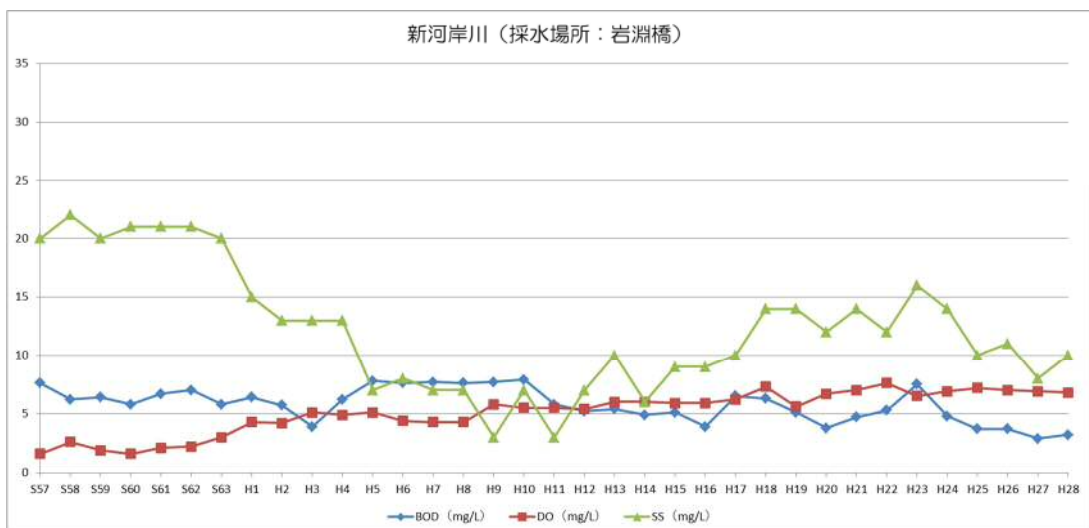
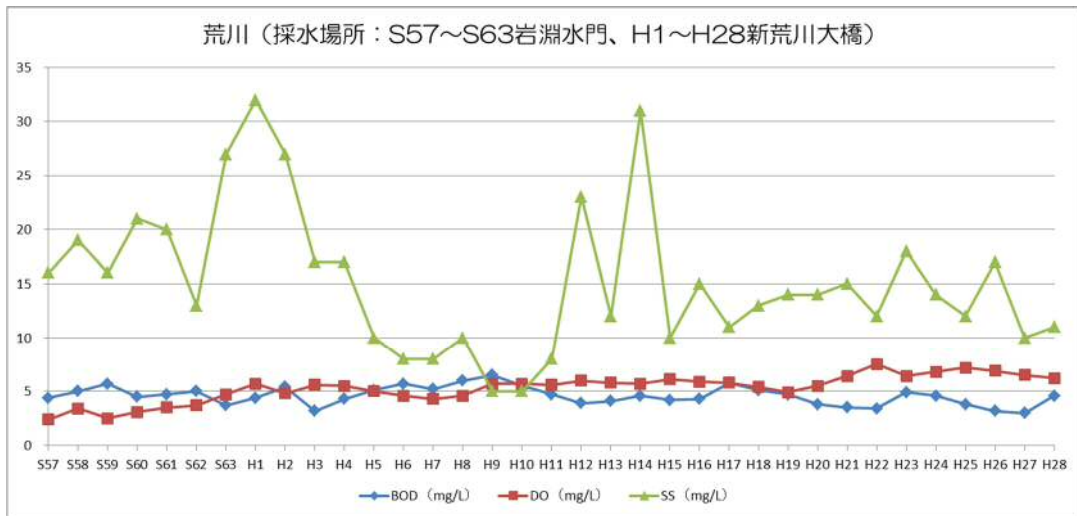
番号	魚 類	S59 年度	S60 年度	S61 年度	S62 年度	S63 年度	H1 年度	H2 年度	H3 年度	H4 年度	H5 年度	H6 年度	H7 年度	H8 年度	H9 年度	H10 年度	H11 年度	H12 年度	H13 年度	H14 年度	H15 年度	H16 年度	H17 年度	H18 年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
1	サッパ																29	7		6	1	98	19			91	21	19		39	20	65		2	10
2	コノシロ												4																				2	71	
3	ウナギ							2	2	1		6				1			1							1				1	2	3			
4	アユ							1	1																						1				
5	ワカサギ															1	4				1	44	13	4			1		2			6	9		
6	タモロコ									2				1							3		6	12	8	1		11	9	15	11		5	39	12
7	スゴモロコ		18	76		1				3		5									1	1	2	4			3	8				4	14		1
8	モツゴ	5	18	9	稚魚	6	1	多数	58	61	72	46	22	149	75	236	507	67	42	19	297	235	192	231	192	189	109	48	50	102	137	31	50	171	89
9	ニゴイ	11	9	7	稚魚	2		15	5	16		8	4	5	2	3	7	12	8	8	14	9	14	3	12	7	14	11	24	4	26	7	5	9	9
10	カマツカ				1																	1	1												
11	ツチフキ					1																	1										2	1	
12	アブラハヤ																	6		2	11	2	33	121	81	77	202	6	120	68	164	56	298	261	3
13	ウグイ	3	1	1	2	1	5	9	4		20																				1		1	1	
14	マルタ						2	1	10	4	3	11	3	5	13	30	7	9		4	28	12	54	7	5	30	66	28		3	23	19	14	37	10
15	オイカワ	1	13	2	稚魚			2					1	1		1	6	2		1			110	31	60	3	90	19	31	35	31	6	113	79	6
16	ハス		1	1	6+稚魚	2		1	1	1		6	3	1		1	3			7	1		2			6	2	12	1	1	2	13	1	3	2
17	ワタカ																	8	2		1				1										
18	ソウギョ	2	3		1																				1										
19	ハクレン	42	2		4	2	6		7	3	2	1			1	1	13	3		5	1	1	2	1	2		2		1				2	6	1
20	コクレン							1																											
21	キンブナ						2	7	2		1			11														1		2					
22	ギンブナ	22	44	147	20+稚魚	6	19	14	29	31	15	23	22	53	11	12	9	9	9	2	4	5	14	13	74	64	40	36	18	65	26	4	18	37	97
23	ゲンゴロウブナ	2	7	8	15	17	13	24	28	6	8	15	3	7	8	1	9	10	22	2	14	14	5	16	7	3	7	5	5	9	3	1	4	3	3
24	キンギョ			1					1			1			1							23	1	3	1			13	10		1				
25	コイ	43	18	41	15	8	9	3+多数	14	15	7	8	12	15	18	6	10	9	20	9	8	84	4	13	17	7	16	10	10	3	7	3	11	5	8
ー	コイとフナの雑種																										1			1			1		
ー	コイ科稚魚																															2			
26	ヤリタナゴ																												2						
27	アカヒレタビラ																						1												
28	タイリクバラタナゴ				微小			19				3	2	2	42						1		2	1	2	27	34	53	55	9	14	4	8	11	89
29	ゼニタナゴ									1																									
30	ドジョウ							1						2	1	14	19	6		1	11	33	140	23	41	19	22	41	18	7	4	21	40	26	9
31	シマドジョウ																															1	8	11	11
32	ギバチ																						8	2	1			3	13	4	2	1	4	2	1
33	ナマズ							1																											
34	メダカ				微小							70		1	20	97		3			2	12	8	4	1			10	2	3	1	2	41	17	3
35	クルマサヨリ																												1	2	1				
36	カダヤシ															5						5	3	42	7		6	11	1	1	5	6	4	7	70
37	グッピー													1	1							1			9	2			7	4					2
38	ボラ		2	5	3	3			1																										

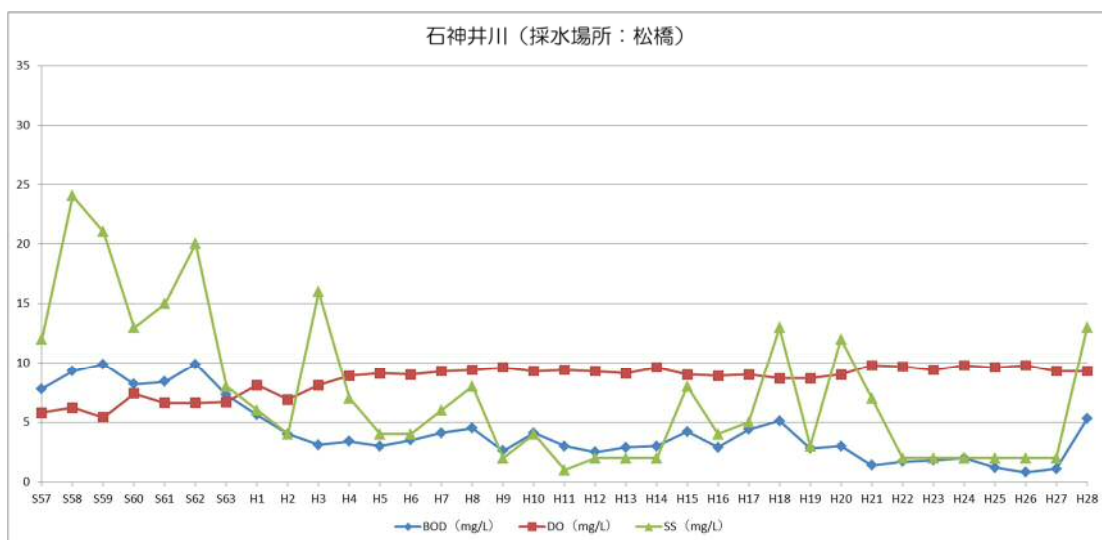
【河川別・年度別捕獲魚類一覧表】

河川名	昭和59年度	昭和60年度	昭和61年度	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度																				
荒 川	オイカワ	1	オイカワ	13	オイカワ	2	オイカワ	種魚	ハス	2	ウグイ	4	ウナギ	2	ウナギ	1	ウナギ	3	ワカサギ	3	ワタカ	8	ウナギ	1	オイカワ	1													
	ウグイ	3	ハス	1	ハス	1	ハス	9	ウグイ	1	マルタ	2	アユ	1	ハス	5	マルタ	3	マルタ	3	ワカサギ	1	ハス	3	ワタカ	2	ハス	7											
	ソウギョ	2	ウグイ	1	ウグイ	1	ウグイ	2	ハクレン	2	ハクレン	2	ハクレン	3	コイ	4	マルタ	6	モツゴ	15	モツゴ	53	ハス	1	マルタ	5	モツゴ	18	マルタ	4									
	ハクレン	42	ソウギョ	3	モツゴ	3	ソウギョ	1	モツゴ	4	モツゴ	1	ハス	1	マルタ	1	ハクレン	3	ハクレン	1	ニゴイ	2	マルタ	2	ハクレン	13	ニゴイ	8	ニゴイ	5	ハクレン	5							
	モツゴ	5	ハクレン	2	スゴモロコ	76	ハクレン	4	ツチフキ	1	コイ	6	ウグイ	9	ハクレン	7	モツゴ	39	ギンブナ	11	モツゴ	25	コイ	5	コイ	3	コイ	11	ハクレン	1	モツゴ	3	コイ	6	コイ	9	モツゴ	5	
	ニゴイ	11	モツゴ	16	ニゴイ	7	モツゴ	種魚	スゴモロコ	1	ゲンゴロウナ	7	マルタ	1	モツゴ	44	スゴモロコ	3	ボラ	1	スゴモロコ	4	ゲンゴロウナ	3	ゲンゴロウナ	6	ゲンゴロウナ	6	モツゴ	143	ニゴイ	7	ゲンゴロウナ	6	ゲンゴロウナ	15	ニゴイ	5	
	コイ	39	スゴモロコ	18	コイ	34	カマツカ	1	ニゴイ	2	ギンブナ	1	コクレン	1	ニゴイ	5	ニゴイ	16	ニゴイ	8	ギンブナ	1	ニゴイ	3	コイ	1	コイ	2	ギンブナ	6	ギンブナ	9	ゲンゴロウナ	2	ギンブナ	2	ギンブナ	2	
	ゲンゴロウナ	2	ニゴイ	9	ゲンゴロウナ	6	ニゴイ	種魚	コイ	8	スズキ	2	ニゴイ	15	コイ	3	コイ	2	スズキ	5	コイ	3	ボラ	21	タイリクバラタナゴ	1	タイリクバラタナゴ	41	コイ	2	ゲンゴロウナ	7	ボラ	19	ボラ	21	ギンブナ	1	
	ギンブナ	17	コイ	15	ギンブナ	113	コイ	11	ゲンゴロウナ	17	マハゼ	6	ギンブナ	7	ギンブナ	1	ゲンゴロウナ	6	ビリンゴ	2	ゲンゴロウナ	15	スズキ	8	ボラ	26	メダカ	20	ゲンゴロウナ	1	ギンブナ	9	スズキ	20	スズキ	17	ボラ	14	
			ゲンゴロウナ	6	ボラ	3	ゲンゴロウナ	11	ギンブナ	6			ゲンゴロウナ	22	ゲンゴロウナ	16	ギンブナ	12	マハゼ	35	ギンブナ	6	スマチチブ	2	スズキ	8	ボラ	37	ギンブナ	12	ボラ	63	ヒイラギ	13	マハゼ	49	スズキ	9	
			ギンブナ	14	スズキ	2	ギンブナ	種魚	ボラ	3			ギンブナ	14	ギンブナ	11	ゼニタナゴ	1			メダカ	70	シモフリシマハゼ	2	ブルーギル	1	スズキ	10	メダカ	96	スズキ	22	クロダハゼ	2			ヒイラギ	23	
			ボラ	2	マハゼ	2	タイリクバラタナゴ	種魚	シモフリシマハゼ	1			タイリクバラタナゴ	19	ボラ	1	ボラ	11			ボラ	7	マハゼ	166	スマチチブ	1	ヨシノボリ類	3	ボラ	13	ヒイラギ	1	スマチチブ	1			スマチチブ	6	
			マハゼ	35	キンギョ	1	メダカ	種魚	マハゼ	83			ドジョウ	1	シモフリシマハゼ	1	スズキ	2			スズキ	3	コノシロ	4	シモフリシマハゼ	6	スマチチブ	9	スズキ	4	ヨシノボリ類	1	マハゼ	28			マハゼ	52	
													ナマズ	1	マハゼ	25	スマチチブ	10			ブルーギル	1			ビリンゴ	9	シモフリシマハゼ	6	ブルーギル	2	スマチチブ	1	コノシロ	7			アシシロハゼ	1	
													スズキ	1	キンギョ	1	マハゼ	231			スズキ	1			マハゼ	42	マハゼ	157	スマチチブ	7	シモフリシマハゼ	1					コノシロ	6	
													ブルーギル	3							スマチチブ	5																	
													シモフリシマハゼ	1																									
													マハゼ	76																									
													モツゴ	多数																									
													コイ	多数																									
計	9種類122尾	13種類135尾	13種類251尾	17種類61尾	13種類131尾	9種類35尾	20種類177尾	15種類120尾	15種類341尾	10種類120尾	19種類318尾	13種類241尾	15種類127尾	16種類371尾	16種類339尾	18種類253尾	14種類145尾	10種類169尾	15種類141尾																				
隅 田 川				コイ	1	コイ	1				ゲンゴロウナ	1																											
計				1種類1尾	1種類1尾				1種類1尾				1種類3尾	3種類15尾	5種類20尾	6種類17尾	4種類32尾	3種類22尾	3種類13尾																				
新河岸川	コイ	4	ギンブナ	1	モツゴ	1	コイ	2	モツゴ	2	コイ	3	コイ	12	コイ	3	ハス	1	ニゴイ	1	マルタ	1	コイ	4	コイ	2	マルタ	1	ニゴイ	3	ニゴイ	3	ニゴイ	3	ニゴイ	3	ニゴイ	3	
	ギンブナ	5		コイ	1						ゲンゴロウナ	1	コイ	11	マハゼ	1	コイ	2			ニゴイ	2	コイ	2	コイ	2	シモフリシマハゼ	2	ゲンゴロウナ	1	ニゴイ	3	コイ	2	コイ	1			
				ゲンゴロウナ	1						ギンブナ	1					ギンブナ	1			コイ	4	ボラ	1	ゲンゴロウナ	1	マハゼ	15	スズキ	6	コイ	1	ゲンゴロウナ	3	マハゼ	12			
				ギンブナ	2						ゲンゴロウナ	11					ギンブナ	3			ボラ	1	マハゼ	8	ボラ	1	アシシロハゼ	1	マハゼ	1	マハゼ	1	シモフリシマハゼ	1					
計	2種類9尾	1種類1尾	5種類7尾	1種類2尾	1種類2尾	1種類3尾	2種類4尾	8種類43尾	2種類4尾	4種類17尾	1種類3尾	5種類29尾	4種類12尾	6種類40尾	4種類22尾	4種類10尾	7種類21尾	5種類21尾	3種類16尾																				
石神井川		モツゴ	2	モツゴ	5	コイ	1			ウグイ	1		ウグイ	4	マルタ	1	ウグイ	20	マルタ	1	オイカワ	1	オイカワ	1	モツゴ	22	オイカワ	1	オイカワ	6	オイカワ	2	モツゴ	1	アブラハヤ	2			
		コイ	3	コイ	5	ゲンゴロウナ	4			ギンブナ	2		マルタ	9	タモロコ	2	モツゴ	8	モツゴ	20	モツゴ	7	マルタ	2	コイ	4	マルタ	25	モツゴ	504	アブラハヤ	6			モツゴ	14			
		ゲンゴロウナ	1							ギンブナ	6		ゲンゴロウナ	1							ギンブナ	14	タモロコ	93	コイ	2	モツゴ	49							コイ	2			
		ギンブナ	29	ギンブナ	32					ギンブナ	18		ゲンゴロウナ	2	モツゴ	22	ギンブナ	1	コイ	4	ギンブナ	17	ギンブナ	2	モツゴ	144	タイリクバラタナゴ	1	ドジョウ	14	ドジョウ	19	ギンブナ	3			ギンブナ	1	
													タイリクバラタナゴ	3							キンギョ	1			コイ	3	ドジョウ	1	メダカ	1	クロダハゼ	1	ドジョウ	6			ドジョウ	1	
計		4種類35尾	4種類43尾	3種類8尾		4種類27尾		5種類34尾	5種類48尾	3種類29尾	6種類43尾	4種類24尾	13種類239尾	8種類46尾	7種類140尾	5種類532尾	7種類72尾	1種類1尾	6種類21尾																				
合計	9種類131尾	13種類171尾	13種類302尾	17種類72尾	13種類133尾	10種類65尾	20種類182尾多数	19種類197尾	16種類399尾	13種類173尾	21種類373尾	15種類297尾	21種類393尾	18種類477尾	21種類507尾	20種類812尾	19種類270	11種類213尾	19種類191尾																				

河川名	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	種類合計(昭和59年度～平成29年度)																			
荒 川	ハス	1	ワカサギ	44	ワカサギ	13	ワカサギ	4	マルタ	5	ウナギ	1	ワカサギ	1	ウナギ	1	ワカサギ	2	コノシロ	30	コノシロ	65	ウナギ	3	サッパ	2	コノシロ	19	サッパ	ナマズ					
	マルタ	13	マルタ	10	オイカワ	9	マルタ	5	ワタカ	1	オイカワ	1	ハス	12	ハス	1	モツゴ	12	ハス	1	モツゴ	43	ウナギ	2	ワカサギ	6	コノシロ	2	タモロコ	2	コノシロ	ドジョウ			
	ワタカ	1	ハクレン	1	ハス	2	ハクレン	1	ハクレン	1	ハス	6	ハス	2	マルタ	22	ハクレン	1	ニゴイ	2	タモロコ	1	スゴモロコ	4	スゴモロコ	14	ワカサギ	9	スゴモロコ	1	ウナギ	ギバチ			
	ハクレン	1	モツゴ	147	マルタ	51	モツゴ	143	モツゴ	86	マルタ	28	マルタ	22	タモロコ	10	モツゴ	41	マルタ	1	モツゴ	87	モツゴ	34	タモロコ	1	モツゴ	56	アユ	メダカ					
	モツゴ	101	カマツカ	1	ハクレン	2	スゴモロコ	4	ニゴイ	11	タモロコ	1	モツゴ	57	モツゴ	43	ニゴイ	23	ハス	1	ニゴイ	21	ニゴイ	7	ニゴイ	2	モツゴ	11	ニゴイ	8	ワカサギ	カダヤシ			
	スゴモロコ	1	スゴモロコ	1	モツゴ	118	ニゴイ	1	コイ	13	モツゴ	78	スゴモロコ	3	スゴモロコ	8	コイ	7	ギンブナ	47	ウグイ	1	マルタ	18	ツチフキ	2	ニゴイ	8	マルタ	9	タモロコ	ボラ			
	ニゴイ	13	ニゴイ	9	ツチフキ	1	コイ	9	ゲンゴロウナ	5	ニゴイ	6	ニゴイ	9	ニゴイ	10	ギンブナ	1	ゲンゴロウナ	4	マルタ	18	オイカワ	3	マルタ	14	ツチフキ	1	ハス	2	スゴモロコ	クロチハス			
	コイ	3																																	

【河川水質の経年変化（年平均値）】





【北区を流れる河川の環境基準】

類型	該当河川	基準値			
		水素イオン濃度 (pH)	生物化学的酸素要求量 (BOD)	浮遊物質 (SS)	溶存酸素量 (DO)
C	荒川 隅田川 石神井川	6.5以上 8.5以下	5mg/L以下	50mg/L以下	5mg/L以上
D	新河岸川	6.0以上 8.5以下	8mg/L以下	100mg/L以下	2mg/L以上

※類型は東京都告示第597号（平成9年5月13日）により指定されている。

- 水素イオン濃度（pH）：
液体が酸性であるかアルカリ性であるかを示す指標。0 から 14 の間の数値で表現されています。pH7が中性、小さくなるほど酸性、大きくなるほどアルカリ性であることを表しています。
- 生物化学的酸素要求量（BOD）：
水中の汚濁物質の量について、それが微生物によって酸化分解される際に必要とされる酸素の量をもって表したものの。値が大きくなるほど汚濁が進んでいることを示します。水質環境基準の代表的なもので、主に河川の有機性汚濁物質による水質汚濁指標として用いられています。
- 浮遊物質（SS）：
水中に浮遊して溶解しない物質の総称で、水の汚濁状況を示す重要な指標のひとつ。河川にSSが多くなると、光の透過を妨げ、自浄作用を阻害し、魚類に悪影響を及ぼします。また、沈降堆積すると、川底の生物にも悪影響を及ぼします。
- 溶存酸素量（DO）：
水中に溶解している酸素のこと。酸素のない川や少ない川はいわば死んだ川で、魚介類は生存できません。



北区河川生物生息調査報告書

平成 30 年 3 月発行

刊行物登録番号

29-1-119

発行／北区生活環境部環境課

〒114-8508

東京都北区王子本町 1-15-22

TEL 03 (3908) 8618 (直通)